



学院時報

No.105

令和7年10月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

T E L 022(222)6337

F A X 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

T E L 022(234)3615

F A X 022(342)0555

希望の巡礼者

マリア アスタ 中里 郁子



今年、教会においては「希望」をテーマとする聖年が祝われています。「希望」について聖

書の中に「希望はわたしたちを欺くことがあります。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」(ロマ書五章五節)という言葉があります。聖年の今年、世界中で巡礼が行われ、この夏、教皇は世界中の若者をローマに招き、一週間の間、青年の祝祭が実施されました。世界中から訪れた百万人以上の若者がローマで出会い、共に巡礼路を歩き、祈り、交わりを深めました。

この青年の祝祭において教皇は、「世界は希望のメッセージを必要としています。皆さんはこのメッセージです。皆さんはすべての人に希望を与え続けなければなりません」と語りかけ、若者が世界の中で世の光として、希望と光のメッセージを届け、平和を証しする人となるように呼びかけました。世界においては今も戦争が行われている地域があり、破壊と暴力の犠牲になっている方がおられます。また、一見平和に見える地域でも、多くの人々が毎日の生活の中で様々な悩みや苦しみを

を抱えて生きています。教皇は、そのような世界において、若者が「希望の巡礼者」として「世の光」となるよう、大きな期待を寄せられました。

また、教皇は「わたしたちは、いかなる被造物もわたしたちに与えることのできない、『より大なるもの』を絶えず願う求めるのです。わたしたちはこの世のいかなるものも満たすことのできないものへの、深い、燃えるような渇きを覚えていきます」と話されました。人間の心の深い渇きは、消費社会で買うことによって手に入れられる物では癒すことができなことを示し、私たちが本当に探し求めているものについて、「わたしたちの心には、燃えるような問いが、無視することのできない真理への欲求があります」と語られました。

本学院においても、これからの時代を生きる園児・児童・生徒の皆さんが真理を探し求め、「世の光」となっていく人々に希望をもたらし人に成長されるように願っております。

「伝統を礎に、

未来を切り拓く」

中学校高等学校校長 柳野 祐二



今年四月より聖ドミニコ学院中学校高等学校校長に就任いたしました。微力

ながら子どもたちの教育の発展に最善を尽くしたい所存でございますので、これ迄と変わらぬ御支援と御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本校は一人ひとりが神様から祝福されたかけがえのない唯一の存在であることを大切に、教育に取り組んでおります。生徒たちは兄弟姉妹のようであり、先生方とも家族のような関係で、生徒は心の拠り所を感じ安心してのびのびと日々を送ることができ環境が変わらず本校の特色となっております。職員室前に並べてある長机では、休み時間や放課後に頻繁に個別学習対応している先生方と生徒たちの姿が日常になっております。考査期間中も教室のそこかしこで同様の様子が見られます。学習・生活・放課後の活動などあらゆる場面でこの個別対応が徹底されているところが本校の伝統となっております。

一方、時代の変化に対応しつつ、子どもたちが充実した日々を過ごし、未来への希望が持てる教育環境の改革に私たちは努めております。本年度高等学校は部活動を始め様々な活動と両立しながら国立公立大学や難関私立大学を目指す進学選抜コースと、基礎学力を高めながら非認知能力である人間力を三年間で鍛え、総合型選抜入試に十分対応できる力を育む進学探究コースに改編されました。また、一人ひとりの個別最適な学習を実現するため全日制課程単位制の学校に生まれ変わりました。今後も一人ひとりを大切にする教育は変わらず、新たな時代に必要とさ

「前進」

中学校剣道部顧問 佐々木 和代

元気溢れる新入生六名が入部し、十七名となった中学校剣道部。四月からまた目標実現に向けて一歩一歩進んできました。各種大会では、「勝って当たり前」と思っていただけるくらい力がついた半面、生徒のプレッシャーは計り知れないものだったと思います。

毎日剣道の練習を頑張る中で、今年七月のドミニコ祭で剣道部の出し物を行いました。普段と違った表情で女子は高校生と一緒に可愛いダンスを、男子は高校生にリードしてもらいオタクダンスで会場を盛り上げてくれました。剣道だけ頑張るのではなく学校生活も常に全力の生徒たちは、いつも以上に輝いていました。中二は野外活動もあり、七月の県大会前は毎年多くの行事を乗り越えて迎えます。県大会では、女子団体優勝、女子個人優勝、男子団体三位、男子個人準優勝という素晴らしい結果を残してくれました。さらに八月に行われた東北大会で

は、女子団体優勝、女子個人優勝、男子団体準優勝という快挙を成し遂げました。ここまで多くの方々に支えていただき、このような結果を残すことができました。ありがとうございました。今後がとうございしました。今後全員力を合わせて、日本一に向かって突き進みます。



聖書のこころ

「主はあなたの心の願いを
かなえてくださる」
(詩編37章4b)

十月はロザリオの月と呼ばれています。イエス・キリストの生涯を思い起こしながら、私たちの生涯の歩みを助けてくださる聖母マリアと共に祈ります。ロザリオの祈りは、アヴェ・マリアの祈りを繰り返しますが、どこでもできるお祈りです。ルルドでもファチマでも、出現されたマリア様はロザリオを手にしながらこの祈りをお勧めになりました。教皇聖ヨハネ・パウロ二世は「ロザリオこそ最高の武器です」といい、世界平和のために祈ることをお勧めになりました。祈りは、私たちが自分の力では出来ないことを可能にしてくれます。祈りを通して、私たちもマリア様に倣い神様のお望みの働き手となりましょう。

中高宗教科

マリアルベール竹内美由紀

幼稚園

親子遠足

入園して約一か月が経った五月十六日。子ども達が楽しみにしていた親子遠足では、初めてみんなで幼稚園を飛び出して、八木山動物公園に行ってきました。天気にも恵まれ、晴れ晴れしい太陽の元で始まった親子遠足。子ども達はウォークラリーのカードを持ちお家の方や仲の良い友達と一緒に、目標の動物達のもとへ向かいます。「ライオンはあっちだ!」と動物園内の地図を解読しながら進む子や、流れに沿って歩き進めていき次々と出会う動物たちに夢中になりながらスタンプを集める子など様々です。可愛らしい動物と出会うキラキラと目を輝かせながら楽しいウォークラリーの時間を過ごしていました。スタンプを全部集めたらご褒美にキラキラシールをもらい達成感で溢れた表情を見せてくれました。昼食ではお家の方やお友達と輪になり美味しいお弁当を頂きました。みんなで初めて幼稚園を飛び出し、ちよっぴり探検気分を味わって楽しい思い出ができましたね!



マリア祭

五月二十九日は、学院全体でマリア祭が行われました。聖母月の五月は、マリア様の歌が園内に響き渡り、マリア様のことを考えながら、心の花束に取り組みます。子ども達は「友達が困っていたら、助けてあげよう。」「トイレのスリッパを皆が使えるように、きれいに並べよう。」等々、自分ができる善い行いを日々実践し、自分の行いをお花にしてマリア様に飾り、優しい気持ちを届けていました。年下の子も達は年長児の姿を観て、「マリア様にお花をあげたい。」と自ら行動に移し、喜びに満ちた笑顔でマリア様にお花を飾る姿が見られました。



マリア祭では、思いを一つにドミニコファミリーとして、お祝いすることができました。そして、子ども達の愛が詰まった「心の花束」や献花をお捧げし、神父様に祝福していただきました。これからも、互いに思いやる心を大切にしながら、マリア様に倣い、感謝して過ごしていきたいと思ひます。



サッカー大会

今年度も熱気あふれるサッカー大会が、七月三日(木)に行われました。子どもたちは、サッカー教室を通して、サッカーにより親しみを感じ、友達と協力して取り組むことに喜びを持って参加していました。当日は、保護者の方々からの熱い声援を受け、ゴールを目指し、ボールを一生懸命に追っていました。その姿はとも格好よく、年中・少・満三歳児からの憧れの存在として、記憶に強く刻み込まれたことでしょう。今年度はクラス数が3クラスとなり、総当たり戦をしました。どの試合も一点を争う白熱した試合運びとなり、試合終了の笛が鳴るまで、目の離せない試合展開でした。勝敗はつきましたが、どのクラスも自分たちの出せる力を出し切りました。勝って嬉しい気持ち、負けて悔しい気持ち、それぞれが経験した気持ちを受け止め、また今後の活動の力となるよう過ごしていきます。



暑い中となりましたが、たくさんのご声援ありがとうございました。



スマイルデー

七月十七日に、年長の一大イベントである「スマイルデー」が行われました。今年のテーマは、聖書にある「天地創造」「生命の表」に着目し、神様が創った世界を感じ、どのようにして今の私たちがいるのかを知ることが目的となりました。導入の中では、子ども達も生命の歴史を感じられるように、イラストを用いて説明をし、みんな楽しそうに学ぶことができました。



当日は天気にも恵まれ、仙台市科学館へ行き、古代の生物の化石を見に、グループ毎に探検しました。化石を発見するたびに、大興奮!他にも様々なブースに触れ、満喫しました。幼稚園に戻り、友達と一緒に、スイカ割をし、大盛り上がり!夕食作りも頑張りました!浴衣や甚平に着替えた後に、スペシャルメニューの給食を食べました。その後はキャンプファイヤーをし、原始人と恐竜も遊びにきて、一緒に七夕踊りを踊りました。花火と一緒に、素敵な夏思い出ができました。



北仙台幼稚園

水遊び

近年、暑い日が続いていますが、今年も暑い夏がやってきました。子どもたちは、始まる前から「いつからプールに入るの?」と、とても楽しみにしている様子でした。

プール活動が始まると、年少児は初めてのプールに戸惑う姿が見られましたが、いざ入ってみると、友達と共に水の感触を楽しみ、笑顔があふれていました。

年中児と年長児は、昨年の経験もあり、プールに期待を膨らませていました。学年が上がったことで遊びの幅も広がり、ボールの色分けゲームや、ペットボトルの水鉄砲で遊び等、活動を楽しむ様子が見られました。

水が苦手だった子どもたちが、自らプールの中に足を入れ、「水って冷たいね」と、笑顔で遊ぶ姿は感動したと共に成長の喜びを感じました。



ファミリーデー

五月三十一日に、ファミリーデーが行われました。当日は天候が危ぶまれる予報で、前日、子どもは「雨が降りませんように」とお祈りをしている姿が印象的でした。当日は、残念ながら雨が降ってしまい、室内でのファミリーデーとなりましたが、子どもたちは元気がいっぱい登園してきました。

各々の保育室では、親子で共に行える手遊びや製作、園長によるダンスを行い、笑顔溢れる子どもたちの姿や、笑い声が聞こえ、親子での触れ合いを楽しんでいる様子が見られました。

保育室での活動の後は、ホールで体操の先生による親子体操を行いました。今年は、新聞紙を使ったじゃんけんゲームや、新聞紙をちぎって遊ぶ、キャッチゲームなどを楽しみました。子どもたちは、身近にある新聞紙の新しい使い方に目を輝かせて活動をする姿に体操を通して親子の絆が強くなったように感じました。

楽しい思い出がたくさんできた、ファミリーデーとなりました。



ドミニコデー

一学期終業式の次の日、七月十八日に年長児だけで園外保育に出掛けました。事前に、探検隊になるために、海の生き物や古代生物について調べ「しおり」を作成しました。又、クイズに答えて、園内に隠された宝物箱を探し、探検隊バッジを手に入れたら、期待は最高潮に高まりました。

当日は、真夏日で、強い日差しが照り付けましたが、大型バスに乗り込み「うみの杜水族館」に出掛けました。しおりに書き込んだ答え合わせをしながら見学し、様々な魚たちのかわいい動きに、歓声が上がっていました。丁度、イルカが産んだ後だったため、赤ちゃんを見る事も出来ました。スタンブラリーを楽しみながら、海の生き物を沢山発見する事が出来たようでした。昼食の後は「仙台市科学館」で、古代に生きていた恐竜達を見学しました。又、リニューアルされた三階では、グループ皆で、大きなシャボン玉に入り、思い出深い一日を過ごす事が出来ました。



マリア祭

マリア様のような優しい心を大切にしながら、お友達や先生たちと過ごしてきた五月の聖母月。スクールバスで向かった先は、学院の大アリーナです。普段なかなか行くことのない学院に、足を踏み入れた子どもたちは、同じ学院の方々と会えることを楽しみにしていました。

マリア祭は、ガクタン・エドガル司教様の司式のもと、温かい雰囲気の中で行われました。たくさんのお花や、一人一人の心を形に表して作った心の花束を、マリア様にお捧げしました。色とりどりに飾られた祭壇は、とても綺麗で、子どもたちも目を見張っていました。

みんなで聖歌を歌ったり、お祈りをしたり、心を合わせて過ごした時間は、子どもたちにとって、学院の仲間であることを感じさせてくれる時でもありました。これからも、マリア様を近くに感じながら、温かい心で過ごしていくことができますように...



ドミニコ祭り

七月二日(水)ドミニコ祭りを行いました。まず初めに、みんなで、ホールに集まり、お祭りの開会式をしました。ドラエもん音頭を踊り、子供たちの歓声がホール中に聞こえてきます。子どもたちの気持ちも盛り上がり、気合十分。さあ!いよいよドミニコ祭りのスタートです。

お祭りでは、三つのゲームを楽しみました。ヨーヨーすくいでは、色とりどりのヨーヨーの中から、お玉でヨーヨーをすくうゲームをしました。次にデイズニーのくじ、水鉄砲や車、スライム、ビーズセットや、プリンセスグッズなど、様々な景品の中から、好きなものを選び、子どもたちは大興奮。最後に、大小色とりどりのスパーボールの中から選び、「とてもきれいだね!」とスパーボールすくいを楽しんでいます。

当日は、ドミニコ学院の高校生が、お手伝いに来てくださり、お祭りを大いに盛り上げてくれました。

「ドミニコ祭り、明日もやりたい!!」と、子どもたちの声!!楽しくお祭りに参加することができて良かったですね。高校生の皆さんも、ご協力ありがとうございました。



小学校

小学校の教育目標は「共に学び、共に在ることが喜びとなる、生き生きとした学校を目指す」ことです。そのために大切にしていることが「たてわり活動」です。全年を六色のたてわりグループに編成し、行事をはじめ様々なことに取り組んでいます。たてわり活動による異学年交流を大切に、学校全体がドミニコファミリーとして活動をしています。

一年生と六年生

入学したばかりの一年生には、一人一人に担当の六年生がつきます。

入学式は出会いの日。六年生が、自分の担当の一年生を出迎えて教室まで一緒に行きます。



翌日からは、朝は昇降口や教室で六年生が出迎えてくれます。ランドセルの準備や、制服から運動着への着替えの仕方とも六年生が教えてくれます。分からないことがあれば親切に教えてくれるお兄さんとお姉さんはとても頼もしい存在です。

十五分休みや昼休みなどは六年生と一緒に

に遊び、少しずつ一年生の友だちとの交流へつなげていきます。給食もランチルームで六年生と一緒に頂きます。そこで、食前食後のお祈りや配膳の仕方、食事のマナーなどを一つ一つ教えてもらいます。



四月いっぱいには、まるで本物の兄弟・姉妹のように六年生がつきつきりでサポートしてくれるので、一年生も安心して学校に來ることが出来ます。一カ月かけて学校のことがよく分かり、自分のことを自分でできるようにになると、いよいよ一年生が独り立ちをします。この一カ月でできた一年生と六年生の絆は宝物になります。そして、一年生が六年生になった時、受けたやさしさを次は自分の番として、一年生のお世話を一生懸命します。この「やさしさのバトン」がドミニコの伝統として続いています。

花山合宿 五・六年生

五・六年生が六月に二泊三日の花山合宿に行きました。

活動内容が盛り沢山で、仲間と協力することの大切さ、自然にふれあう楽しさ、やりとげる喜びなどたくさん学びがある合宿となりました。

ふりかえり

合宿を通して学んだこと

今後生かしていきたいこと

六年 石井 陽子

初日はソトドコオリエンテリングをしました。活動班のみんなで案を出し合って写真の場所を見つめます。似たようなものが複数の場所にあったときは、とても難しかったです。でも、ずっと探していたのが見つかったときはとても嬉しかったし、達成感がありました。また、私は腕時計を持つ係だったので、集合時間までの時間を班のみんなに声かけすることを心がけました。

夕方には野外炊飯をしました。私は薪係で、主に薪をわって、かまどに火をつけ、ちょうど良い火加減になるようにします。

五年生の理科で習った『物の燃え方』を生きかし、うちわで調節しました。途中で火の粉がはねることもあったり、ポロシャツに灰がついたりしたこともあったけれど、カレーの香りがしてきたときは「頑張っておいしいカレーを作ろう」と気合いが入りました。みんなの頑張りでできたカレーは、今までで一番おいしかったです。

二日目は楽しみにしていた沢登りです。

ライフジャケットとヘルメットをしっかりつけて、沢へ向かいました。沢に入るとき、一番驚いたのは水の透明度です。地面の石が見えて、とても芸術的でした。所々に苔が生えていて、とても自然豊かでした。入ったときは冷たくて、足がかじかんだけれど、どんどん進んでいくうちに慣れていって気持ちよく感じました。

また、飛び込みもしました。飛び込む場所を下から見ると低かったけれど、実際に上に立って見ると怖かったです。みんなのカウントダウンと共に飛び込みました。一瞬体がふわっと浮いて、「バシヤン。」と水の中に沈みました。人生であまりできないことだったので、貴重な体験でした。帰るときには雨が降ってしまったけれど、雨にうたれながら本館に戻りました。

夜は天候考慮の為、キャンドルサービスをしました。ロウソクの火を見ながら歌ったり、遊んだりしました。とても新鮮な時間を過ごすことができました。

三日目の最終日は、スコアオリエンテリングをしました。初日より急な坂がたくさんあったけれど、一人一人の知識を生かして解き進みました。スコアオリエンテリングでは、仲間と協力する力が身に付きました。そして最後は、みんなでお弁当を食べました。「頑張ったよかったな」と思いました。とうとう最後の別れの集い。ソトドコオリエンテリングとスコアオリエンテリングの優勝班と問題の答えが発表されました。「えー、そうだったの。」「合ってた。」「とびつくりや納得がたふさんありました。優勝まではいけなかったけれど大切な事をたくさん学ぶことができました。十一月には修学旅行もあるので今回学んだ事を生かしていきたいと思っています。

一日目
◎ソト・ドコオリエンテーリング
◎野外炊飯



二日目
◎沢登り
◎キャンドルサービス



三日目
◎スコアオリエンテーリング



新任紹介

ようこそドミニコへ 遠藤 駿先生



四月から聖ドミニコ学院小学校に赴任いたしました、四年生副担任の遠藤駿です。
以前公立小学校に勤めておりましたが、不登校や様々な特性をもつ子供たちにかかわりたいと考え、退職後は児童生徒の学習支援活動に取り組んでまいりました。出身は石巻市で、おいしい海の幸を食べること、身体を動かすこと（最近はず水泳）が大好きです。

様々な学年に、様々な教科で授業をしています。それぞれの学年で様子が違うため、常に学年のことを思い浮かべながら授業づくりをしています。用意した教材を見たり、発問を聴いて、子供たちがじっくりと考えたり、想定していないような気づきを見つけ出す姿を見取ることができると、教員としてのやりがいを感じます。

まだ赴任して四か月とは思えないほど、日々の子供たちとのかかわりのなかでたくさん思い出や学びを得ることができています。これからも子供たちとのかかわりを大切にしなが、担当している教科を好きになってもらえるような授業づくりに努めていきます。

どうぞよろしく
お願いいたします。



おめでとう合唱団

♪第七十七回全日本合唱コンクール

宮城県大会

・宮城県合唱連盟理事長賞

・金賞（全国大会出場決定）

♪第九十三回 NHK全国学校音楽コンクール

宮城県大会

・金賞（東北大会出場決定）



合唱団団長 鈴木 桜

今年、六年生として掲げた目標は、『紡信煌星』です。これまでの伝統に自分達の歌声を紡ぎ、仲間を信じ、一人一人の個性を煌かせ、流れ星のようにあつという間な一分一秒を大切に歌おうという思いをこの目標に込めました。一つ一つのコンクールを経験する度に、私達自身も少しずつ成長してきましたが、課題点にも沢山気付くことができました。

十一月、静岡県で行われる全国大会では、更なる努力で曲を最上級に仕上げ、ホールいっぱいドミニコハーモニーを響かせて、笑顔で締めくくりたいです。応援を、よろしく願います！

インスタグラムとブログ

二〇二五年四月よりインスタグラムを始めました。普段の活動の様子を写真や動画でタイムリーに知ることが出来ます。

また、ホームページでのブログも週二回（火・金）更新しております。学校の様子を教員目線で書いております。

是非、インスタグラムとブログをご覧ください！



入試について

【募集人数】

一年生 四十名（男・女）

【願書受付】

九月一日（月）～十月二十七日（月）

※Web出願となります。詳しくは本校ホームページをご覧ください。

【入試日】

十一月一日（土）

随時、希望者向けに学校見学を行っております。個別にご案内いたします。お電話からホームページからお申し込みください。

中 学 校

今、伝えられる「ありがとう」を

中学校主任 小野 景子



「ありがとう、ごめんね、助かったよ、お疲れ様、頑張ったね、大丈夫？」、無理はしないでね。言葉はいつだって、思いやりを伝えるための最もシンプルな方法です。

誰しもが壁に阻まれる思春期。私にも友人関係や部活動で悩んだ時期がありました。友達の色を窺いながらその日の自分をつくって周りへの気遣いに疲れる毎日。そんな思いを周りに知られたくない私は、最近どう？と聞かれても、楽しいよ、と適当にごまかしていました。

そんな日常に慣れ始めた頃、母からメールが届きました。「頑張りすぎなくていいんだよ」から始まる母らしい肌理の整ったメッセージは、半分まで読んだところで胸がいっぱいになり、それ以上の続きは見られませんでした。相談なんて一言もしていないのに、どうして自分の気持ちを知っているのだろう。どうして自分が一番欲しい言葉を母は分かってくれているのだろうと、不思議な気持ちでいっぱいになりました。

時にはつまらないことでケンカをして、顔も見たくないと思った時もあったかもしれませんが。たくさん感情をぶつけました。たとえそれがどんなに母を傷つける言葉であつても、寂しい思いをしながら全て受け止めてくれていたことを、あの頃は分かっていませんでした。だからこそ、まっすぐに届けられていた愛情に、いま自分は何を返すことができるだろうと考える今日この頃です。

あとどれくらい、一緒に笑いあうことができるでしょうか。あと何回、美味しいお弁当

を作ってくれるでしょうか。あとどれだけ、自分のために本気で叱ってくれるでしょうか。あとののくらい、あなたを一番傍で応援してくれるでしょうか。

慌ただしい毎日を過ごしていると、それが当たり前になつていてことを忘れてしまします。家族の愛情、友達の優しさ、大切な人の存在。それがずっとそばにあると約束されているわけではないからこそ、「ありがとう」を言葉にできる毎日を感謝して過ごしていきたいですね。

新しい学びの環境



一年A組 金原 享佑

ドミニコ小学校を卒業して、新しい制服に身を包んで登校した、中学校という新しい環境に期待と不安を抱えています。慣れない通学手段に初めて出会う友達、新しい先生。勉強も難しくなるだろうし、周りがいつぱんに変化することへの心配は、とても大きかったです。

しかし、スターティングプログラムでの活動やレクリエーションを通して、頼れる先輩やこれから一緒に勉強する仲間と様々な交流をすることができ、不安が軽くなりました。五月の遠足や運動会でも、新たな仲間と協力し合って、精一杯取り組むことができました。

授業では、教科ごとに先生が変わって新鮮です。より理解が深まり、ひとクラスの人数が少ないことで授業内で意見を共有する機会も増えて、さらに集中しやすくなりました。

今のクラスには、剣道や習い事など自分でも頑張りたいことを伸ばしている友達がたくさんいます。ばくも小学校の頃から競技かるたを続けているのですが、そんな周りの環境は「自分もかるたを頑張ろう」という励みになります。中学校に入って、かるた勉強の両立がしやすくなったと感じるのは、クラスメ

イトのおかげです。これからも友達や先輩方とともに、楽しく充実した学校生活を送ることができるよう頑張りたいと思います。

野外活動で学んだこと

二年A組 五十嵐 晟羽



夏真っ盛りの七月中旬、僕たちは岩手県での野外活動に参加しました。出発前は不安もありましたが、この三日間で僕は多くのことを学び、成長できたと実感しています。

特に心に残ったことは仲間と協力することの大切さです。初めての自主研修では、自分たちで計画を立て、時間通りに目的地に辿り着かなければいけません。地図を見て、道を間違えながらも、お互いの意見を出し合って助け合い、そして全員でゴールできた時の達成感は忘れられません。一人では成し遂げられないことも、仲間と力を合わせれば乗り越えられるのだと実感しました。

また、自然の中での活動を通じて、コミュニケーションの大切さにも気付きました。運転手さんや施設の方々から「おはようございます」「ありがとうございます」「ありがとうございます」と挨拶を心がけると相手も笑顔で返してくださる、そこから何気ない和やかな会話が生まれました。

洞窟探検では足場が悪く怖さを感じました。「大丈夫？」「気をつけて」と、仲間と声を掛け合うことで、不安が安心に変わって、一体感が生まれました。

そして、活動を共にしたクラスメイトの存在の大きさにも改めて気付か



されました。仲間がいたからこそ挑戦できたことが多く、助け合いながら過ごしたこの二日間がクラスの絆をさらに深めてくれたと思います。活動を支えてくれた多くの方々への感謝を忘れずに、これからも周りの人との「つながり」を大切にしていきたいです。

ドミニコ祭に参加して

三年A組 西脇 美月

私たち中学三年生は、今年度七月五日に行われたドミニコ祭で、初めて出店をしました。この出店は、二年生の頃からのクラスでの希望でした。

何を出店するのか、テーマは何にするのか、役割はどうするのか、試行錯誤の日々でした。みんなでああでもない、こうでもない、とたくさん話し合いを重ね、衣装は男子がメイド服、女子は浴衣と男装に決まりました。

文化祭までの準備は、想像以上に大変でした。買い出し、看板づくり、飾り付け、会計など、やることは盛りだくさんだと気づかされました。多くの先生方にアドバイスと御協力をいただきました。

準備は時間との戦いでしたが、クラスのみんなが協力し、無事に本番当日を迎えることができました。お客さんもたくさん来てくださり、販売した食品はすべて完売となりました。私たちにとって、中学生最後の文化祭が、忘れられない思い出となりました。



集大成

女子剣道部主将 小笠原 杏莉



今年度、女子剣道部は宮城県大会団体・個人戦ともに四連覇、東北大会においては二年ぶりの団体優勝・個人初優勝、そして、全国大会は予選リーグ敗退という結果でした。

今年度も県大会優勝という目標を達成するまでには本当に様々なドラマがあり、高い壁を乗り越えて、全国大会出場というスタートラインに辿り着きました。東北大会では舞台の雰囲気を楽しみ笑顔で試合に臨みました。女子団体で予選リーグを突破したのは県勢でドミニコだけだったこともあり、宮城県チームの想いを竹刀に想いをのせて戦うことができたことが、昨年敗れた相手校へのリベンジに繋がりました。

そして、最後の全国大会での予選リーグ敗退。私たちが敗れたチームは、最終的に今大会の団体準優勝を飾りました。目標に届かず悔しい結果となりましたが、全員が同じ方向を向いて最後まで諦めず後悔のない試合をすることができました。私はこの夏を通して仲間、先生方、応援してくださる保護者の皆さんとたくさんの縁を結ぶことができた事に感謝しています。

私たち三年生は次のステージでも剣道を通して培った多くのことを活かして励んで参ります。新体制となるドミニコ剣道部の応援を引き続きよろしく願います。



一本の重み

男子剣道部主将 庄子 結士



私たち男子剣道部は今年も五人全員揃って中総体団体戦に出場することができました。

中学男子団体としては、去年に引き続き、県大会優勝、東北大会優勝、全国大会制覇という目標でした。しかし、現実はあるに甘いいものではありませんでした。県大会では一本差で決勝の舞台へと上がることができず、今年も全国行きの切符を逃してしまいました。一本の差で負けてしまい悔しい思いが込み上げてきましたが、悔し涙を流している仲間を励まし、東北大会に向けてまだやれることがある、自分たちの剣道を出し切ろう、そう心を奮い立たせて、残りの日々を稽古に打ち込みました。東北大会では一人一人が一本を繋ぎ切り、決勝トーナメントに上がることができましたが、最終的には準優勝という結果で今年度の中総体を終えました。

宮城県大会三位、東北大会準優勝という悔しい結果に終わってしまったこと、そして一本の差で県大会決勝の舞台に上がれなかった現実が大きく、一本の重みを感じた大会でした。この悔しさをバネにして次の舞台で活躍できるよう、これからも稽古に励んでいきます。本当にありがとうございました。



活躍するドミニコ生

【聖ドミニコ学院中学校】

仙台市文化芸術賞 3年 松本 廉生

みちのく剣道大会 準優勝 女子剣道部

第十八回相馬野馬追旗争奪近県剣道大会 中学女子の部 第3位

第三十三回遊佐中学校剣道錬成大会 中学生女子の部 優勝 女子剣道部A

第十二回東日本少年剣道錬成大会 中学生女子の部 第2位 女子剣道部

第七十四回仙台市中学校総合体育大会 剣道競技 女子団体 Dブロック 第1位 女子剣道部

男子団体 Bブロック 第1位 堀江葵咲絆

男子個人 Dブロック 第1位 佐々木りく

第四十二回NHK杯全国中学校放送コンテスト 宮城県大会 奨励賞 3年 大藤 優音

朗読部門 アナウンス部門 奨励賞 3年 大藤 優音

第七十四回宮城県中学校総合体育大会 剣道競技 女子団体 第1位 女子剣道部

男子個人 第1位 堀江葵咲絆

男子団体 第1位 堀江葵咲絆

男子個人 第2位 高橋 和花

令和七年度東北中学校体育大会 剣道競技 女子団体 第1位 女子剣道部

男子個人 第2位 堀江葵咲絆

男子団体 第2位 堀江葵咲絆

男子個人 第3位 高橋 和花

第八回全国競技かるた秋田大会 D級 第3位 1年 金原 享佑

令和7年度第七十五回仙台市中学校英語暗唱大会 奨励賞 3年 武山 虎太郎

高門宮杯第七十七回全日本中学校英語弁論大会 奨励賞 3年 庄子 結士

中学校生徒募集について

2026年度入学生募集定員および入学試験概要は以下のとおりです。詳細は生徒募集要項を確認してください。

◆募集定員・入学試験概要

定 員	30 名 (男子・女子)				
試 験 区 分	Ⅰ 期			Ⅱ 期	
試 験 日	2026 年 1 月 7 日 (水)			2026 年 1 月 24 日 (土)	
出 願 期 間	2025 年 12 月 1 日 (月) ～ 2025 年 12 月 17 日 (水) ※土・日は除く			2026 年 1 月 8 日 (木) ～ 2026 年 1 月 21 日 (水) ※土・日は除く	
	出願手続きは Web 出願となります				
試 験 内 容	推薦入試	一般入試	スポーツ奨学生入試	推薦入試	一般入試
	・ 面接試験	・ 適性検査 [総合問題 (筆記と英語リスニング)] ・ 面接試験	・ 面接試験	・ 面接試験	・ 基礎学力検査 (国語・算数) ・ 面接試験
	面接試験は保護者同伴となります				
合 格 発 表	2026 年 1 月 8 日 (木)			2026 年 1 月 26 日 (月)	
	(本校ホームページに合格者の受験番号を掲載)				

高等学校

これからがんばれ！一年生！

第一学年主任 前田 朱美

入学してから四カ月が経ちました。六十五名の生徒たちは毎日元気に活動しています。七月の文化祭では二組が喫茶店を開き、すぐに完売し大成功でした。五月に話し合いを始め、直前までクラス全員で力を合わせて準備しました。今回で要領を覚えたので、来年はさらに工夫されて楽しいものが出せると思っています。私はどのクラスも週に四時間ずつ授業に行っていますが、お互いの声掛けが多く、思いやりや助け合いの気持ちを常に感じています。学習に関しては苦手な分野や科目がそれぞれあると思いますが、六月の中間考査も乗り越えました。欠点科目を抱えた生徒は夏休みに補習を受け、再考査を受験しましたが、非常に真摯な態度で臨むことができていました。一年生は初めてのことがばかりで戸惑いを感じることが多かったでしょう。通学時間も伸びて疲労もあったでしょう。でもここまで頑張ってきたので、大丈夫です。高校三年間は思うよりずっと短いですが、一日を大切に、積み重ねていきましょう。



進路実現に向けて

二年二組 阿部 京
(仙台市立広瀬中学校出身)

四月に新入生が入学し、昨年の四月、自分も新しい学校生活に不安と期待を抱き、入学したことを思い出します。昨年は先生や先輩方に助けていただいて過した一年でした。そして今年からは二年生として支え

る側になり、時の流れの早さを感じています。

私は、昨年の十月から生徒会に入り、新入生歓迎会やオープンスクールなどの学校行事に携わることができ、貴重な体験をすることができました。また、部活動では七月のドミニコ祭に向けて準備をしてきました。時には意見が合わず、悩むこともありましたが、お互いの意見を合わせながら最後は全員笑顔で終えることができました。

二年生になってから、自分の進路についてさらに考えることが多くなりました。クラスでも進路先のオープンキャンパスの話をよく耳にします。私も今年の夏、自分が目標としている学校のオープンキャンパスに参加しました。参加した学校の在校生とフリートークの時間があり、志望動機や実際の学校生活についても聞くことができました。少しではありますが、自分の将来像が見えてきたように感じています。

一年後の進路実現のため、大切に学校生活を過ごしていきたいと思っています。

最初と最後

三年学主任 及川 俊浩

高校三年生にとって最大の行事はやはり卒業後の進路を決めることです。総合型選抜や学校推薦型で挑戦する生徒にとって、書類と格闘し、技術を鍛えていくことに力を注いでいます。もちろん、一般型選抜で挑戦する生徒にとっては日々の学習をより一層行っていくことが肝心になってきます。どちらにしても今まで以上の努力を積み重ねることが求められています。

さて今年度は聖ドミニコ学院高等学校にとって初めての男子の卒業生を出すことになります。卒業式で男子の名前を呼ぶことは実は想像がまだ付いていないのが現状です。まずは進路達成に向けて力を出してもらうことをサポートするばかりです。

今まではほとんどのみなさんが同じような進路をたどってきたのですが、高校卒業後はそれぞれが、進路にわかれていきます。今まで同じ歩みを



していた生徒が別々の道に分かれていくことになるのです。そのようなこともあり、残された高校生活は一つ一つが最後になります。毎日の学校生活を大切にしてほしいものです。

進学選抜コース、勢いよく始動

進学選抜コースリーダー 橋本 ひかり

文字通りです、活気あふれる生徒たちが多く入学してくれました。今までの特別進学コースと異なる点が「運動部への入部が可能になった」ところです。そのため、剣道部やバレーボール部も在籍していて日々勉強と部活動の両立に励んでいます。特別進学コースの伝統を引き継ぎつつ、新しい風を吹かせてくれることだろうと期待しています。

進学選抜コースに入学したから選抜になれるわけではなく、三年間を乗り越えて「選抜」の名にふさわしくなっていく。そんなことを思いながら、生徒たちの可能性を見出すためのサポートをしていきたいです。大学卒業後の社会に出てからが長い人生。目標達成のために憧れの大学を目指す。そして、専門性を学び、社会に貢献する。日頃から、周りがよくみえていて（時には見え過ぎてしまつて困りますね）、物事の本質を捉えることができる生徒が多いため、リーダーシップのある大人になるのではないかと思います。



進学探究コース、光り輝く原石

進学探究コースリーダー 大坂 康寛

進学探究コース・単位制初年度がスタートしました。幸運にも今年度は、五十三名(女子四十名、男子十三名)の光り輝く生徒達と出会うことができました。社会は情報化やグローバル化が進展し、さまざまな事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっています。その社会を行き抜くためには、正解を早く正確に導いたり、決まった手順を効率的にこなすだけでは

なく、新たな価値の創造に向け、自ら課題を発見したり、知識や情報を活用する力。そして大切な人々と協働する力が求められています。

コースの目標であるドミニコの人間力を身につけるため、この半年学習や人間関係、様々な壁にぶつかってきました。しかし、日常の関わり合いや学校行事等を通して、経験が生徒一人ひとりを成長させています。気づきから二人で行動出来る者。まだ差し伸べる手が必要

な者。成長速度は千差万別。しかし、毎日に発する言葉や行動、特に笑顔に変化が見られます。まだまだ高校生活は始まったばかり。好奇心一杯、元気一杯、周囲が多少ハラハラするようでも、自分の可能性に挑戦し、素晴らしい高校生活を送れることを祈っております。

目標達成に向けて

特別進学コースリーダー 橋本 ひかり

特別進学コースの二、三年生が夏の学習合宿に臨みました。そして、合宿初日に東北大学のオープンキャンパスに参加しました。そこで卒業生に遭遇。学科の説明を受けることができました。帰りに、先輩から直接「勉強大変だけど頑張つてね」「物理は特に勉強しておくといひよ。」などと励ましやアドバイスをもらった時の生徒の嬉しそうな笑顔が印象に残っています。合宿二日目には、卒業生が手伝いに来てくれました。大学の話を聞いたり、憧れの先輩から英語を一对一で教えてもらったり、より勉強に身が入ったようです。また、夏休み中に県外の大学のオープンキャンパスに積極的に参加する生徒も多くいました。それぞれが憧れの人や場所を一杯思い描き、体感



高校生女子の部
第1位 女子剣道部

平和への誓い

小学校 校長 森 研二



今年八月、日本は戦後八十年という節目を迎えました。私たちは今、

「平和とは何か」を改めて問い直す時を迎えています。本校の六年生は七月の宗教の時間に、戦争や平和について学び、話し合いを重ねながら「平和へ

キリスト教精神に基づく豊かな人間性の育成を目指して

角五郎幼稚園・北仙台幼稚園 園長 佐々木 和



このたび、令和七年四月より角五郎幼稚園と北仙台幼稚園の二園の幼稚園園長として勤務させていただきますこととなりました。元気で明るい子どもたちと過ごす日々、喜びと責任を感じながら保育に携わっております。

私はこれまで、私立幼稚園にて三十三年間、クラス担任・教頭として勤務し、その後は四年制大学にて幼稚園教諭・保育士養成科の教育に七年間携わってまいりました。そして今、再び現場に戻り、園長として子どもたちの成長を見守る立場をいただいたことに、深いご縁と感謝の気持ちを抱いております。今までの経験を活かしながら、子どもたちの健やかな成長を支える保育を、二園の教職員と力を合わせて築いていきたいと考えております。

の誓い」という詩を全員で作成しました。その詩には、「悪を避け、善を行い、平和を求めよ」という聖書の言葉が引用され、「希望を持ち、心から笑い合える世界を共に作っていきましょう」と続いています。子供たちの言葉には、未来へのまっすぐな願いと、他者を思いやる優しさが込められており、私たち大人の心にも深く響きます。本校では、聖ドミニコの精神に根差し、対話を通して他者と共に生きる姿勢を大切にしています。日々の学校

人格形成の基礎を培う大切な幼児期に関わる幼稚園教諭は、明るく温かい心を持ち、日々の保育に情熱を注いでいます。子どもたちとの生活は常に変化に富み、臨機応変な対応や的確な判断が求められる毎日です。子どもたちの命を守りながら、楽しい遊びや活動を保障する保育は、緊張感のある責任ある仕事であり、先生方は豊かな経験とチームワークで日々真摯に向き合っております。

園長として、それぞれ二園の先生方の素晴らしい保育を支えながら、時代の変化にも揺るがない幼児教育を常に意識し、聖ドミニコ学院幼稚園のめざす子ども像である「キリスト教に基づいた宗教教育と毎日の生活を通して正しい心、命を大切にすること、感謝する心、他者に対する思いやりなど、豊かな人間性を備えた子どもの育成」を目指して、保育に取り組んでまいります。また、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、共に子どもたちを育てる環境づくりに努めてまいります。

小学校・中学校・高等学校の皆様との交流を積極的に図り、異年齢の関わりを保育の中に取り入れていきたいと

生活の中で、子供たちは友達との対話や助け合いを通して、平和の種をまいています。その小さな種が芽を出し、育っていくためには、私たち大人が子供たちの声に耳を傾け、共に歩む姿勢を持つことが何よりも大切です。これからも本校では、子供たちが身近な出来事に関心を持ち、対話を通して他者を理解し、平和のために行動できる力を育む教育を続けてまいります。子供たちの純粋な願いが、未来の社会を照らす光となることを信じて。

思います。年齢の異なる子どもたちや生徒とのふれあいは、幼児にとっても新たな刺激となり、思いやりや社会性を育む貴重な機会となります。また、上の世代にとっても、幼児との関わりは優しさや責任感を育てる大切な経験となることでしょう。小学校、中学校、高等学校の生徒の皆様、教職員の皆様方と交流を持ちながら、異年齢と関わる機会を保育に取り入れていきたいと思っております。

今後とも、保護者の皆様、聖ドミニコ学院教職員の皆様、地域の皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(味噌仕込み(北幼))



(朝のお祈り(角幼))



(帰りの挨拶(角幼))



(誕生会(北幼))

幼稚園 募集について

聖ドミニコ学院幼稚園
2026年度(令和8年度)

園児募集日程

- 願書配布開始 10月 1日(水)
○入園説明会 10月15日(水)
○体験入園 10月23日(木) 24日(金) 29日(水)
○願書受付・面接・手続き・用品注文 11月 1日(土)

園児募集について

- ◎満3歳児(4年保育) 15名
2023年(令和4年)4月2日~
2024年(令和5年)4月1日
◎3歳児(3年保育) 25名
2022年(令和3年)4月2日~
2023年(令和4年)4月1日
◎4歳児(2年保育) 10名
2021年(令和2年)4月2日~
2022年(令和3年)4月1日
◎5歳児(1年保育) 若干名
2020年(令和2年)4月2日~
2021年(令和2年)4月1日

- 〈入園願書受付〉
11月1日(土)7時30分~
〈場所〉
聖ドミニコ学院幼稚園玄関
※西門からお入り下さい。
〈提出物〉
入園願書・家族写真・検定料
(5,000円)・入園前の状況調査書
〈入園面接〉
親子面接(10分程度)
〈入園手続き〉
入園許可となった方は、入園料
(無償化に相当)教育充実資金(3万円)を収めていただきます。
〈用品注文〉
カバン・上靴・お道具等
※詳しくは、募集要項をご覧ください。

聖ドミニコ学院北仙台幼稚園
2026年度(令和8年度)

園児募集日程

- 願書配布開始 10月 1日(水)
○見学会 10月 2日(木) 10月 3日(金)
○入園説明会 10月11日(土)
○願書受付・面接・手続き・用品注文 11月 1日(土)

園児募集について

- ◎3歳児(3年保育) 35名
2022年(令和3年)4月2日~
2023年(令和4年)4月1日
◎4歳児(2年保育) 10名
2021年(令和2年)4月2日~
2022年(令和3年)4月1日
◎5歳児(1年保育) 若干名
2020年(令和2年)4月2日~
2021年(令和2年)4月1日

- 〈入園願書受付〉
11月1日(土)7時30分~
〈場所〉
聖ドミニコ学院
北仙台幼稚園玄関
〈提出物〉
入園願書・家族写真・検定料
(5,000円)・入園前の状況調査書
〈入園面接〉
親子面接(10分程度)
〈入園手続き〉
入園許可となった方は、入園料
(無償化に相当)教育充実資金(3万円)を収めていただきます。
〈用品注文〉
カバン・上靴・お道具等
※詳しくは、募集要項をご覧ください。